

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「GDP」と「NBI」パート①～

GDPは、高校生のみなさんはもちろん知ってますよね！「国内総生産」ですね。1国の経済の大きさ、物質的豊かさをあらわす指標として、経済成長率のニュースでも良く取り上げられますよね。今回と次回の通心は・・・この「GDP」と聞きなれない指標「NBI」についてです。では・・・どうぞ。

日本のGDPがドイツに抜かれ、世界第4位に陥落しました。

日本は1968年に西ドイツを抜き、アメリカに次いで世界第2位に躍進しました。

(1945年が終戦です。国富の4分の1を失った日本は、戦後わずか23年で世界2位に成長したんです。驚きですね。何があったのか知りたくありませんか?)

その後、2010年に中国に抜かれ3位に。中国の人口は日本の10倍ですが、今回は人口が日本の3分の2のドイツに抜かれたわけです。

この間、日本は漠然と「失われた10年・・・20年」と繰り返し言うのみで、国政レベルでの解析・対策・実践が不十分で、結果的には、ほぼ無策であったことは残念でなりません。

その一方で今日、マスメディアなどで大々的に取り上げられているのは、裏金問題などです。

政党交付金として345億円を負担している国民からすれば、真に不明瞭で不誠実、腹立たしい限りです。

しかし、ここで省みなければならないのは、彼らを選ぶ権限は選挙人たる我々にあったということです。彼らを選挙で選び、そして野放しにしてきたは、他ならぬ我々です。・・・根本的には、いま彼らを糾弾している我々にこそあるのです。

日本の国政選挙における投票率をみると、不祥事への厳しい不満のわりには、我々選挙人の半数近くが国政政治参画の権利と義務を放棄しているのです。

政治家への批判は、天に唾しているようなものだともいえます。

国際的研究機関「民主主義・選挙支援国際研究所」の2020年の調査では、日本の国政選挙投票率順位は**194か国中139位**という惨状です。

ちなみにオーストラリアやシンガポールでは、棄権者には罰金を科し、より厳格に社会的責任を求めています。

「致知」5月号 巻頭の言葉 JFEホールディングス名誉顧問 数土 文夫

名目GDPの各国比較

※2023年

1		米国	27.4兆ドル
2		中国	17.7兆ドル
3		ドイツ	4.5兆ドル
4		日本	4.2兆ドル
5		インド	3.7兆ドル

3位から4位に

以前、1961年、アメリカ合衆国第35代大統領J・F・ケネディが就任演説を紹介しましたね。

「国があなたのために何をしてくれるか……を問うのではなく…あなたが国のために何をなすことができるのかを問うてほしい。」

と、国や社会に対し、国民として、社会の構成員としての義務の実践を訴えました。君たちは、この県高での高校生活中に政治参画の「選挙権」を持つこととなります。まもなく選挙権を持つ者として、上記の数土さんの言葉、J・F・ケネディが就任演説をどう受け止めますか？

